

令和4年度 まちづくり・未来づくり講演会

青少年育成等ワークショップ
鎮魂太鼓

和太鼓 疾風（はやて）

代表 佐藤 廣之

和太鼓 疾風（はやて）について

和太鼓 疾風は、久之浜第二小学校の児童だけで構成していた「みつもり太鼓」を母体に、卒業した後も小学生の時に習得した太鼓技法を生涯にわたり活かすため、平成18年に設立した団体

構成人数：15名（設立時：10名）

主な活動

久之浜・大久地区文化祭及び福島や山形県内の太鼓フェスティバルの出演や老人ホームや仮設住宅・災害公営住宅での演奏会



事業概要について

誰でも気兼ねなく参加できる、プロの太鼓奏者が指導にあたる太鼓のワークショップの開催

ワークショップで練習した曲を、大勢の人の前でプロの演奏家と一緒に披露する演奏会の開催



東日本大震災による久之浜・大久地区の被害

久之浜・大久地区では、震災により、①地震、②津波、③火災、④原子力災害、⑤風評、⑥空き巣の被害が発生

【人的被害】

69名の尊い命が犠牲に（直接死：47名、関連死：10名、死亡認定及び行方不明：12名）

【放射線の被害】（平成23年4月6日測定値）

・ 久之浜第一小学校：1.5～1.70 $\mu\text{Sv/h}$ ・ JR久ノ浜駅：1.5～1.70 $\mu\text{Sv/h}$

【その他の被害】

自主避難勧告により久之浜・大久地区の**全住民（約5,700人）**が、**勧告に基づく避難**を実施。

東日本大震災からの久之浜・大久地区の復興

平成26年に、住民の生活や産業の再生を図ることを目的に、行政の各種施策や地区住民の復興・まちづくり活動の道標として久之浜・大久地区復興対策協議会が、復興グランドデザインを策定

- ・ 末続・金ヶ沢地区の防災集団移転促進事業竣工（H26年度）
- ・ 災害公営住宅「久之浜東団地」入居開始（H26年度）
- ・ 久之浜・大久ふれあい館の供用開始（H27年度）
- ・ まちと漁港を結ぶ蔭磯橋の供用開始（H28年度）
- ・ 浜風きららのオープン（H29年度）
- ・ 震災復興土地区画整理事業全宅地引渡し完了（H29年度）

復興事業後にみえてきた新たな課題

建物、道路・橋、そして防災緑地などのハード面の復興事業が終了しつつある一方で、そこに住んでいる住民や震災で避難したままの住民の心が、町なみの変化や生活環境の変化に追いついていない

震災直後には、他の地区の団体が開催してくれていたソフト面（物故者への鎮魂や被災者の心のケアなど）の復興事業が極端に減少

新たな地区課題解決のため
「鎮魂太鼓」
を企画

事業内容（1回目、令和元年度）

ワークショップ

日時：令和元年7月13日（土）

場所：久之浜第一小学校体育館

講師：「宗家 御諏訪太鼓」

練習曲：「勇駒 とんばね」、参加者：20名



演奏会(日時：令和元年7月14日（日）)



久之浜漁港



道の駅よつくら港

事業内容（2・3回目、令和3・4年度）

ワークショップ

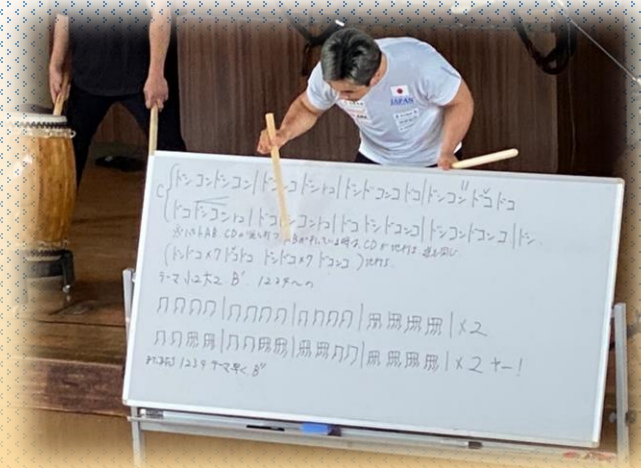
日時：令和3年7月17日（土）

令和4年7月16日（土）

場所：久之浜第一小学校体育館、

講師：「日本太鼓 TAKERU」

練習曲：「ヨーソー」 、 参加者：30名



事業内容（2・3回目、令和3・4年度）

演奏会

日時：令和3年7月18日（日）

令和4年7月17日（日）・8月11日（木）

場所：久之浜漁港・道の駅よつくら港



事業を実施しての感想と課題

感想

- コロナ禍での開催の難しさ
- 参加者が年々増加
(ワークショップ参加者
R元年度：20名⇒R4年度：30名)
- その他の団体からのサポート
(復興対策協議会や市漁協からのサポート)
- 久之浜・大久地区の恒例行事としての定着化

課題

- 地区内の恒例行事として一定の認識がなされ、地区内の住民からも令和5年度以降も毎年開催を期待する声が多数寄せられている一方で、次年度以降も、これまでと同規模での開催を継続していくことの難しさ

事業を実施しての課題を踏まえた今後の事業展開

課題 事業の継続性



課題を踏まえた事業展開

- ・ 今回の事業で得た、プロ演奏家からの指導方法のノウハウを参考にした魅力あるワークショップの開催
- ・ ひとつの太鼓団体の事業ではなく、事業をとおして繋がった団体等と連携しながら、まち全体での開催



ご清聴
ありがとうございました。